

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090100825		
法人名	株式会社 上毛福祉会		
事業所名	グループホームさちね		
所在地	群馬県前橋市上細井町2015		
自己評価作成日	令和8年2月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	令和8年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念に掲げる「家族」のように寄り添う姿勢を大切に、一人ひとりのペースに合わせた声かけや関わりを行い、できる方には役割を持ていただきながら、その人らしく生活できるよう支援している。木造の建物や開放的な中庭、家庭菜園、季節の花や飾りを取り入れた環境を、安心感や気分の安定につながる心のケアにも生かし、落ち着いて過ごせる居心地のよい環境づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「家族」を理念に掲げ、利用者との関係性をつくり、そうしたなかで思いを引き出し、その思いを大切にしている。具体的には、利用者ができることには職員が介入しないようにして、できることをしていただけるようにしている。食事においては、うどん打ちやおはぎ作りなどを行うなかで、活躍する場面を作りながら食への意識を高めている。また、日々の食事提供において、健康管理を意識した乳飲料・食物繊維の提供がなされている。入浴においては、利用者の好みの温度や好きなシャンプーの利用など楽しめる入浴を演出するなかで、元美容師の利用者にブローをしてもらうなど活躍の場をつくっている。また、職員が必要に応じ2人介助をすることで、湯舟につかれるよう支援している。このように、職員間で日々意見を出し合い、本人本位に検討することで、利用者の暮らしのなかで思いを反映させている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を目に付く場所に掲示し、職員会議や入社時研修で定期的に共有している。日々のケアでは家族のように寄り添う姿勢を大切にし、傾聴や声かけ等による心のケアを意識して実践している。	理念を玄関ホールなどに掲示し意識づけを図るとともに、理念に掲げている「家族」を目指し、アットホームな施設運営に努めている。具体的には利用者との近い関係性を築きながら利用者の思いや変化を吸い上げ、カンファレンスで話し合いケアにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、季節の農作物をいただき、納涼祭などの行事の際には協力費等で協力し、地域との交流を図っている。	自治会からじゃがいもやさつまいもなどの農作物をいただく関係を築いている。回覧板や自治会長から地域のふれあいサロンなどの活動の紹介を受け、今後利用者の参加に向けて取り組みたいと考えている。また、地域に発信していく機会も模索している。	地域とのつながりの基盤があるので、それを活かして、利用者や事業所が地域により関わる機会につながることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の場で、事業所の取り組みや日頃の状況を共有し、参加者から意見をいただきながら地域とのつながりづくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に一回運営推進会議を開催し、状況報告と意見交換を行っている。また、会議の内容を職員間で共有している。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、事業所の報告を行っている。そうしたなか、水害対策の具体的なアドバイスを受けている。現在は、家族代表、自治会長、市担当者の出席で行われており、今後出席できない家族への関わりや、議題による出席メンバーの再考なども視野に入れて検討したいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議でご意見を伺い、意見交換を行っている。	市の担当者とは、運営推進会議で情報交換などが行われている。その他は、必要な事務手続きなどでの関わりが主なものとなっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3か月に1回、身体拘束適正化委員会で話し合いを行い、身体拘束を行わないケアに向けた取り組みを継続している。玄関の施錠は防犯のため夜間のみ行っている。	身体拘束をしないために、そうした状況を作り出さないことが肝要と考え、見守りを徹底するようにしている。また、利用者のふらつきがあるなどの状況変化や、気持ちの変化を職員で伝え合い、それに伴う行動を予測して対応に努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回、虐待防止委員会を開催し、職員間で話し合いを行い、虐待のないケアを継続している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している方はいるが、制度について学ぶ機会は十分に設けられていない。今後は職員が制度への理解を深められるよう、学ぶ機会を設けていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結にあたり、十分に説明を行い、納得いただいたうえで締結している。改定の際は、口頭および書面でお伝えしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族から意見をいただく機会を設けている。 また、いただいた意見を検討し、可能な範囲で運営や支援に反映している。	家族の面会時には事務室で座って話す時間を設けており、そうしたなかで意見を聴取する機会をつくっている。運営に関する意見を意識的に聴取するには至っていないが、管理者を含め職員が、家族来所時には利用者の様子を伝えながら、家族との信頼関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の提案や意見を聞く機会を設け、可能な限り反映している。	毎月のケアカンファレンスのほか、日々の業務のなかで、職員が意見を言えるようにと考えており、意見があれば検討して実現できるよう取り組んでいる。そうしたなか、職員が連携のもとスムーズに業務ができるような提案があり、変更した事例もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者からの報告を通じて職員の状況や就業環境を把握し、必要に応じて改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加できる機会はあるが、現状は参加できていない。日々の業務の中で申し送りや職員間の共有を通じて、学び合いの機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在交流の機会はないが、今後機会を設け、サービスの質の向上に向けた取り組みを行いたい。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人からご要望を伺い、気持ちに寄り添いながら信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等が気軽に要望を伝えられるよう関係づくりに努めている。また、面会時の会話に加え、メール等も活用して連絡・相談しやすい体制を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族の状況やご希望を伺い、その時に優先して必要な支援を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護される一方の立場に置かず、本人の選択や役割を大切にし、できることは見守りながら必要な部分のみ介助して、自分らしく生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いやご希望を伺いながら、本人と家族のつながりを大切に、職員と家族が協力して本人を支える関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご希望を伺いながら面会や外出の機会を確保するなど、可能な範囲で支援している。	馴染みの人は家族や知人であると考え、面会の機会を大切にしている。また、利用者にとって、馴染みの場であり、ゆかりのある場所には、ドライブの際に意識的にまわっている。また、これまで利用者が大切にしてきた編み物などの事柄がホームでの生活の中で継続できるように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立する利用者が出ないよう、利用者同士の関係性を把握し、職員間で共有したうえで関わり方を検討し、互いに関わり合いながら安心して生活できるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、必要に応じて相談を受け付け、可能な範囲で助言等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員間で情報を共有し、ご本人の希望や意向の把握に努めている。意思表示が難しい方についても、表情や様子から何を望んでいるかをくみ取り、居心地よく生活できるよう努めている。	会話のなかで思いを引き出し、それぞれの職員の対応によって引き出す部分も異なるため、職員間で情報を共有している。会話が難しい利用者に対しては、表情などから推し量るようにしているが、入居からこれまでの様子から、〇さんであればこうであろうと、本人本位に検討を行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族からお話を伺い、生活歴やこれまでの暮らし方、生活環境等の情報をできるだけ把握できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関わりの中で得た気づきを職員間で共有し、一人ひとりの心身状態や過ごし方、有する力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人の意向や状態、ご家族の思いを職員間で共有・検討し、介護計画の作成や見直しに生かしている。	ケアカンファレンスで意見を出し合いアセスメントして介護計画を作成し、毎月モニタリングを行っている。計画作成者でもある管理者は、具体的な短期目標を立てることで、職員が支援とその記録を関連付けられ、モニタリングにつなげられるものと考えている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの内容を個別に記録し、職員間で共有しながら実践に生かすとともに、介護計画の見直しに反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望にできるだけ応えられるよう、状況に応じて柔軟な対応を行っている。必要に応じて外出同行を行うなど、個別の希望に応じた支援に努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用できる地域資源を活用し、生活の質を高められるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・歯科といつでも相談できる体制を整えており、本人やご家族の要望に応じて適切な医療を受けられるよう支援している。	事業所の協力医をかかりつけ医としており、月2回の訪問診療を全利用者が受けている。協力医に相談し整形外科や皮膚科などを受診する場合には、職員が対応している。歯科は月2回訪問診療があり、必要な利用者が受けている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当施設に看護職の配置はないが、協力医療機関の看護師にいつでも相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者と細かな情報交換を行い、安心して治療が受けられるよう努めている。また、できるだけ早期に退院できるよう、退院後の受け入れ体制を整えるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や看取りについては、本人・ご家族の要望を伺い、主治医の意見も確認しながら話し合いを行っている。	入居時に、常時医療的処置が必要な場合には、看取りはできないことを伝えている。その後は、かかりつけ医の判断で重度化した場合には状況を説明し、家族の希望をもとに、事業所に対応ができるか職員で一致した見解をした上で、看取りを含め対応している。看取りでは、家族の宿泊も受け入れた事例もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルの掲示を行い、各ご利用者の緊急時対応を職員会議等で定期的に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行い、避難方法の確認をしている。緊急時には地域の方の協力が得られる体制を整えている。	年2回火災と自然災害を想定して、日中の訓練を行っている。そのほかに、夜間想定訓練を行っている。災害時の手順を掲示し、水害時には関連施設に避難することなどを決めており、地域の災害ボランティア2名が登録されている。	今後、災害ボランティアとの関わりを持つことで、具体的な協力体制の確認が行われ、夜間の火災対策をはじめとする災害対策がさらに講じられることを期待したい。

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方に合わせた声かけを行い、誇りやプライバシーを損ねないよう努めている。	利用者ができることに職員が介入しないように、配慮している。できることをしてもらうことは、その人にとって張りになり、それを奪うことは誇りを損ねることと捉えている。また、その人にあった声かけをして、利用者が望む対話に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が希望を伝えやすい雰囲気づくりに努めている。言葉での表出が難しい方についても、表情や様子から思いをくみ取り、対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの希望やペースに沿って、その方らしい暮らしができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な散髪やひげ剃り、お化粧品などについて、本人の希望や職員の気づきをもとに身だしなみを整え、その人らしくおしゃれを楽しめるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食べやすさに配慮し、食事が楽しみな時間になるよう努めている。また、できる方には準備や片付け等を一緒に行っていただき、役割を持って過ごせるよう支援している。	食材はスーパーへ買い物に行ったり、冷凍素材を選んだりして、職員が調理して提供している。ヨーグルトにオリゴ糖、豆類や繊維質などを、毎日意識して取り入れている。利用者が一緒にうどん打ちやおはぎづくりなどを行える機会をつくり、食への意識を高める取組みを行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量を確認し、一人ひとりの状態や習慣に応じて、無理なく摂取できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じて口腔ケアを行い、口腔内を清潔に保てるよう努めている。必要に応じて歯科医に相談できる体制を整えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用して一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、できるだけトイレで排泄できるよう支援している。	トイレは3ヶ所あり、身体状況によって使い分けをすることができる。トイレで排泄ができるように、水分摂取量と排泄チェック表をもとに時間誘導を行っている。そわそわした動作などを察知して、タイミングを逃さないように誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や食事内容に配慮し、排便状況の確認を行いながら、一人ひとりに応じた便秘予防と対応に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望や体調に配慮して入浴支援を行っている。勤務体制等により日時を調整することもあるが、できるだけ本人の意向に沿えるよう努めている。	一般浴槽に、必要に応じ2人の職員で湯舟に浸かれるよう支援している。機械浴槽では怖がる利用者も、信頼関係のある職員の支援で安心した入浴につなげている。週2回の入浴を、入浴を嫌がる利用者の声かけを工夫したり、好きな温度、好みのシャンプーなどを利用したりして、個々に合わせた気持ちよい入浴を提供している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣やその日の体調に合わせて休息をとっていただいている。また、安眠できるよう、日中の過ごし方を工夫したり、居室環境を整えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理表で各人の服薬内容を把握し、毎食後の服薬はチェック表で管理している。また、必要に応じて薬剤師や主治医に相談できる体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴に加え、ご家族からの情報やホームでの生活の様子も踏まえながら、役割や楽しみごと、気分転換の方法を工夫し、その人らしく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望や状態、身体機能に合わせて外出できるよう努めている。ご家族と一緒に外出する機会もある。	気候のよい時期が少ないが、利用者の歩行の状態に合わせて、散歩コースを変えて散歩をしている。近隣の小学校の運動会を見学に行ったり、ドライブに行ったりすることもある。今後は、ばら園などの花見や、ふれあいサロンや老人センターなど、他者とのふれあいも視野に外出を支援したいと考えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人のお金の所持はないが、要望時には立て替えにより買い物支援ができる体制がある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している方がご家族へ電話をされている。また、やり取りの難しい方に代わりホームでの様子の写真や動画をスマートフォンで送り、ご家族とのつながりを支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地のよい場となるよう、季節感のある飾りや花などを飾り、落ち着いて過ごせる環境づくりに努めている。	表札のある門扉を開けると木や花が植えられており、中庭も同様にバラや家庭菜園がある。日差しが入る廊下には、木目調の室内にあわせて、よしずがかけられ調整できるようにしている。館内には、花が置かれ、これまでの関わりのあった方の写真や書などが飾られ、落ち着いた雰囲気がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室や食堂、廊下のベンチなどで仲のよい方同士が楽しく過ごされている。また、自室で一人で過ごす時間も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では、ご本人が使用していた馴染みの物や飾り、ご家族の写真などを取り入れ、居心地よく過ごせるよう努めている。	各居室には、利用者の動線を確保しつつ、馴染みの机やテレビ、食器などが持ち込まれている。そうしたことを通して、利用者が自分の居室としての認識づけとなるようにつなげている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や居室には手すりを設置し、ご利用者が安全に生活できるよう配慮している。また、センサーも活用し、安全に配慮しつつ、できるだけ自立した生活が送れるよう支援している。		